

「2014年の年頭にあたり」

明けましておめでとうございます。

日本のスポーツ界にとって激動の年であった2013年から、いよいよ年が明け、2014年になりました。

今年は、激動の2013年を踏まえ、躍動するスポーツ立国ニッポンを目指して、歩みを進める年となります。激動から躍動へ、わが国における日本スポーツ振興センター（JSC）の立ち位置をしっかりと再認識し、覚悟して仕事を進めていかなければならないと考えています。

2013年9月に開催が決定した2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会の招致は、2011年にスポーツ基本法が制定され、法的裏付けのもとに、国として、招致段階から直接関わることが出来た初めての歴史的経験でした。

JSCはスポーツ基本計画に明記されているようにわが国唯一のスポーツに関わる独立行政法人として、情報活動、くじ助成による支援、拠点形成支援、人的なネットワーク支援など様々な角度から活動を展開し招致成功に大きく貢献することができたと認識しています。

国が一丸となって招致に成功したこの東京オリンピック・パラリンピック大会は、すでに国内外の様々な面で良い影響が明確になってきているように思います。その一つとして、日本のスポーツ界が待望していたスポーツ庁創設に向けての動きの本格化も挙げられます。

このスポーツ庁の創設は、今後10年、20年といった長いスパンを見据えての取り組みです。

スポーツ庁の設置により、JSCとしてどのような役割を担い、どのような使命を果たすことが、国益にかなうのかをしっかりと考え、行動していきたいと思えます。

そのような状況の中、JSCとして認識すべきは、我が国においても、スポーツの力が認識されて、「スポーツが真の政策課題」になりつつあることだと思えます。JSCの果たすべき役割はますます重要になると確信しています。

スポーツにもっと出会える国に、
もっと勇気をもらせる国に、
みんながスポーツで笑顔になれる、
そんなニッポンをつくりましょう。

2014年もどうぞよろしく願いいたします。

日本スポーツ振興センター
理事長 河野 一郎